

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号		
所属	医学系専攻 保健学分野 成人保健学ユニット	氏名	木下 愛未
学位論文題目	Effectiveness of an Aggression Management Training Program in Japan: A Quasi-Experimental Study (日本における攻撃性マネジメント研修プログラムの効果：準実験研究)		
論文審査担当者	主査 會田信子 副査 杉山暢宏, 下里誠二, 田中留伊		
(学位論文審査の結果の要旨)			
<p>精神科患者の攻撃性や暴力的行動の予防とマネジメントは、精神科スタッフの重要な援助のひとつに位置づけられている。2005年に保護的モデルを基盤とした包括的防止プログラム (Comprehensive Violence Prevention and Protection Program: CVPPP) が開発され、医療スタッフを対象とした研修によって普及が図られてきたが、医療安全に焦点が置かれた強制的な身体拘束技術としての意味合いが強かった。論文提出者を中心とする研究組織では、攻撃性を誘発する可能性のある複雑な相互作用を理解し、ケアの視点で患者に介入する協働的モデルを基盤とした CVPPP を2019年に改訂し、研修によって普及に努めてきた。本研究は、改訂した CVPPP の効果検証を視座にすえて、CVPPP の研修前と研修直後、1ヶ月後での受講者の自信と患者の攻撃性への態度の変化、及びこれらの変化と個人特性の関連性を明らかにしたものである。</p> <p>対象は、2019年度に実施した CVPPP のプログラムを受講した1,146名中、過去に CVPPP の受講経験がなく、すべてのプログラムを受講した95名で、分析対象は研究協力に同意が得られた50名であった。方法は、一群事前事後テストデザインによる質問紙法で、研修前と研修直後、1ヶ月後に実施した。調査内容は、対象特性としての基本属性と攻撃性 (BAQ)、看護援助特性 (IPC-PC) を、研修効果指標としての患者の攻撃行動への怒りの程度、攻撃的な患者へのケアに対する自信、患者の攻撃に対する態度 (ATAS) であった。分析方法は、Paired <i>t</i>-test、反復測定分散分析後に多重比較 (ペアワイズ比較)、χ^2検定、unpaired <i>t</i>-test を用いた。研修を含めた研究の実施にあたっては、信州大学医倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号4502)。</p> <p>その結果、木下愛未は次の結果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修前と1ヶ月後では、自信 ($p < 0.01$) と患者の攻撃性に対するポジティブな態度 ($p < 0.01$) が有意に高く、患者の攻撃に対するネガティブな態度 ($p < 0.01$) と身体的攻撃への怒りの程度 ($p < 0.01$)、非身体的攻撃への怒りの程度 ($p < 0.01$) 得点が有意に低かった。 2. 研修効果と個人特性では、身体的攻撃への怒りの程度において、男性よりも女性が ($p < 0.05$)、短気得点の高い者が有意に高値であった ($p < 0.05$)。管理的で ($p < 0.05$)、自己肯定的 ($p < 0.05$) な援助特性をもつ傾向のスタッフは、攻撃に対するポジティブな態度が改善した。 <p>以上の結果より、CVPPP の1ヶ月間の継続効果、および女性、短気であることや患者に対し優位性の高い特性に有効であることが示唆された。研究の限界として、対象が研修1ヶ月後まで回答に協力した者に限定されるセレクションバイアス、時間経過による成熟効果やホーンソーン効果などは避けられないものの、協働的モデルを基盤とした CVPPP の研修効果を確認したデータは貴重であり、新規性の視点からは高く評価できる。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			